妊婦健診時の検査および健診料の御案内

（2023/4 版）

妊娠おめでとうございます。これから、妊娠・分娩・産褥期間を安全に過ごすために当院に通院していただくことになります。より快適に安全に過ごせるようお手伝いします。

ご存知のように、妊娠に関連する検査は自費扱いとなり、健康保険は適用されません。もちろん、おりものが多いとか性器出血がある等の自覚症状があれば、健康保険は適用されます。しかし、自覚症状がない時にスクリーニングで行う検査は原則として全額自費扱いとなります。下記に検査のスケジュールをお示します。

妊娠３ヶ月 (8～11 週)	４ヶ月 (12～15 週)	５ヶ月 (16～19 週)	６ヶ月 (20～23 週)	７ヶ月 (24～27 週)	８ヶ月 (28～31 週)	９ヶ月 (32～35 週)	10 ヶ月 (36 週～)
３ヶ月検査				７ヶ月検査	８ヶ月検査	９ヶ月検査	10 ヶ月検査 ①　、②
健診頻度　　１回/月				１回/2 週			１回/週

1. 原則、妊婦健診の度に超音波検査で胎児の状態を確認します。胎児に何らかの異常を認めた場合、当院では妊婦様に児の状態を説明することを原則としています。しかし最近では、胎児の良くない情報を知らないでいる権利も認められるようになってきました。胎児に染色体異常や奇形などの異常が疑われた場合、その事を知らせて欲しくない場合は、あらかじめ担当医にその旨お申し出下さい。なるべく希望に沿うよう配慮したいと思います。
2. 妊婦健診での検査結果は母子手帳に結果を転記し、検査伝票をお渡しするよう心がけています。より安全、確実に妊娠・分娩・産褥期間を過ごして頂けると考えるからです。もし、検査結果の母子手帳への転記を希望されないのなら、あらかじめ担当医にお申し出下さい。
3. 内診はおりものが多い、性器出血がある、お腹が痛い等の異常のある場合は、その都度実施します。また、なんの自覚症状が無くても、原則として初診時、妊娠３ヶ月時、妊娠 20～25 週時、妊娠 30～31 週時、妊娠 35～37 週時、妊娠 38 週以降に施行します。初診時は子宮外妊娠等の異常妊娠の鑑別や卵巣嚢腫等の婦人科疾患のチェックのため、妊娠３ヶ月時は分娩予定日の決定のため、妊娠 20～25、30～31、35～37 週時は胎盤の位置の確認と早産の予防のため、妊娠 38 週以降は普通分娩が可能かどうかの判定と分娩時期の予測のためです。
4. 健診料は毎回**¥6,000-**で自費扱いになります。骨盤位や児に異常を認める場合、妊娠高血圧腎症（高血圧、蛋白尿等）の場合、切迫早産等の何らかの疾患を認める場合の診察料、検査料は保険扱いになります。
5. 上記は２回目以降の健診料です。（初回は保険診療で、妊娠経過に異常がないのを確認し、２回目以降が自費診療になることが多いです。）初回から、自費診療を希望される方は、初回の妊婦健診料は**¥12,000-**となります。
6. **“３ヶ月検査”**、（必ず必要な検査で、妊娠３ヶ月時に合計**¥14,000-**）
   血液型(A、B、O、AB、Rh)、貧血、梅毒、B 型肝炎、C 型肝炎、AIDS、HTLV-1、風疹、トキソプラズマ、心電図、血糖値、クラミジア、不規則抗体
7. 明石市からの助成券をお持ちの方は助成券に余裕があるので**子宮頸癌検診を¥8,000-、感染症検査（麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、サイトメガロウイルス）を¥15,000-、人間ドック（肝機能、腎機能）を¥3,000-、甲状腺機能検査を¥4,000-**で受けて頂くことができます。ご希望の方はお申し出ください。
8. 里帰り分娩、他院からの転院等で、既に他院で検査をお済の方は、原則的に、上記の中で足りない分だけ、追加で、当院で検査を施行させて頂きます。
9. **“７ヶ月検査”**、（必ず必要な検査で、妊娠 26～27 週時に**¥2,000-**）
   50g グルコースチャレンジテスト。50g グルコースチャレンジテストは、妊娠中盤以降の、糖尿病のスクリーニング検査です。50g のブドウ糖の入ったジュースを飲んでもらい、その１時間後に血糖値を測定する検査です。当日、食事を抜いてくる必要はありません。診察までの待ち時間を利用しますから、来院時に受付でお申し出下さい。
10. **“８ヶ月検査”**、（必ず必要な検査で、妊娠 30～31 週時に**¥7,000-**）
    腟分泌物培養検査（GBS の有無を確かめます）、貧血、９か月検査とかぶりますが、９か月検査の結果が判明するまでに分娩になる方がいらっしゃるために新設いたしました。この時期の検査だけでは妊娠 36 週以降の分娩では結果が無効になります。
11. **“９ヶ月検査”**、（必ず必要な検査で、妊娠 35～37 週時に合計**¥7,000-**）
    腟分泌物培養検査（GBS の有無を確かめます）、貧血
12. **“10 ヶ月検査①”**、（必ず必要な検査で、妊娠 36 週以降健診ごとに**¥2,000-**）　NST（胎児の健康状態をチェック）
13. **“10 ヶ月検査②”**、（必ず必要な検査で、妊娠 39 週時に**¥2,000-**）　貧血
14. この他に、異常が健診時に見つかれば、それに対する保険診療分の負担が別途必要となります。
15. 胎児が小さい時や羊水が少ない時、妊娠 35 週以降に NST（胎児の心拍数を測定し胎児の健康状態を調べる）という検査を施行します。胎児が小さい時や切迫早産のお薬を服用しているときは、週1 回は健康保険が適用されますが、それ以外は、自費で健診料と別に**¥2,000-**必要となります。
16. 超音波 4D 検査（胎児の動画）を**¥4,000-**で行っておりますので、ご希望の方は受付もしくは医師にお申し出下さい。妊娠のどの時期でも撮影できますが、妊娠 27～29 週時が児の顔がきれいに写り易いです。

1. 血液型(A、B、O、AB、Rh)

妊娠中または分娩時に異常な大量出血のあった場合、同じ血液型の血液を準備・輸血する必要があります。迅速に対応するため、あらかじめ血液型を調べておきます。

2. 貧血

お母さんに強い貧血があると、分娩時に出血性ショックを起こしやすく危険です。

3. 梅毒

早期に発見・治療すれば新生児への悪影響を未然に防げます。もし、感染したまま放置すると、流産や早産のほかに先天性梅毒児の生まれる心配があります。

4. B 型肝炎

B 型肝炎の原因となるウイルスが血液中にあるかないかを調べます。また、お母さんが感染している場合には、児へ感染する恐れがありますので、予防処置などを行います。

5. C 型肝炎

C 型肝炎の原因となるウイルスについて、精密検査が必要かどうか調べるスクリーニング検査です。輸血や性行為で感染する可能性があります。

6. AIDS

エイズの原因ウイルスです。性行為や輸血などから感染するだけでなく、胎盤や産道・母乳からかなりの確率で母子感染します。

7. HTLV-1

成人 T 細胞白血病のウイルスです。白血病を発症する可能性は低いです。性行為や輸血などから感染するだけでなく、母乳から新生児に感染する可能性があります。

8. 風疹

妊娠初期に風疹にかかると、流産や児の疾患（先天性風疹症候群）などの原因になります。高い値の場合は最近感染した可能性がありますので、IgM 抗体検査で確認します。

9. 腟分泌物培養検査、(GBS 腟炎)

GBS とは B 群溶連菌のことです。児が産道を通過する時に感染することが稀にあります。一旦感染が成立すると、児は髄膜炎や敗血症を起こし１～２割以上が死亡してしまいます。

10. トキソプラズマ

ペットの糞尿から手を介して、また、よく火の通っていない肉類などを食べることなどで感染します。妊娠中の初感染では流産や早産のほかに、先天性疾患を持つ赤ちゃんが生まれる危険性があります。初回の検査が陽性の場合、最近の初感染かどうかを確認するため、IgM 抗体検査を行う必要があります。

11. 心電図

不整脈がないか調べます。

12. 血糖値

妊娠糖尿病の早期発見、治療のために必要な検査です。糖尿病を適切に管理しないと、母児ともに様々な影響（巨大児による難産・帝王切開、胎児死亡、児の神経麻痺等の異常）が及ぼされます。

13. クラミジア

産道感染によって新生児肺炎や新生児結膜炎などを起こす可能性があります。感染している場合、夫の治療も必要です。

14. 不規則抗体

妊娠中または分娩時に異常な大量出血のあった場合、輸血の必要があります。お母さんの血中に不規則抗体があると、同じ血液型（A、B、O、AB、Rh）でも、輸血により副作用が発生する場合があります。不規則抗体がある場合、その抗体がどんな抗体か前もって調べておけば、副作用の出ない、適合する血液を準備することが容易になります。また、不規則抗体の種類によっては、胎児に影響する場合があるので、抗体の種類や量を測定し、胎児の状況を把握しておく必要が出てくる場合があります。

15. 子宮頸癌検診

いわゆる子宮癌検診です。最近、妊娠、分娩年代の若い世代の増加が報告されています。20 歳を過ぎれば、出来たら１年に１回、少なくとも２年に１回の検診が勧められています。